

びわこ文化公園植物だより〔β版〕

クサギ シソ科

- ・学名 *Clerodendrum trichotomum*
- ・園内雑木林の林縁に自生、花期は夏



道路沿いにタカサゴユリの白い花々が目立ち始める頃、日当たりの良い林縁の木々にも白い花が目立ち始めます。前回のリョウブとは異なる花の付き方で、枝先や上部の葉の付け根から広がるよ

うに花序を出てきて目立ちます(集散花序)。近づくとほんのりと芳香が漂うこの花はクサギです。

クサギは漢字で「臭木」と書きます。日当たりの良い山野の林縁に生える落葉の小高木で、ほとんど全縁の毛の多いハート形～広卵形の 10～15cm 程度の少し大きめの葉を付けます。葉は 2 枚ずつ対生に付けます。葉を揉むとその名の通り独特の臭い匂いが漂いますが、後味の悪い臭さではなく、ほんのりと胡麻のような芳香の漂う臭さで、好き嫌いがあるかも知れません。

クサギは四季折々の姿が楽しめる植物です。8 月終わりから 9 月にかけては花の時期です。クサギの花は筒状の花冠の形状をとりますが、上部は大きく 5 つの列片に分かれヒトデのように広がります。下部はすぼまって紅紫色。花冠の中央から 4 本の雄しべと 1 本の雌しべが細長く飛び出し、独特の形状を示します。暑さの中に花の香りと形状が楽しめます。

花が終わると萼が濃紅色に色づき、10月から11月に果実が成熟すると萼が深裂して星状に開き、その中から光沢のある藍色の果実が出てきます。藍色の果実が濃紅色の星形の中央に出てくるため、独特の色合いを楽しめます。藍色の果実と濃紅色の萼は染料にも使われるそうです。

冬には葉を落としますが、もともと暖地性の植物のため、冬芽は鱗片や毛で覆われること無く裸芽で、あまり寒さには強くありません。葉が落ちた後の枝を観察すると葉の付着してた部分(落葉痕)



がハート型になり水分通導の跡(維管束痕)が U 字に並んで特徴的です。

そして春には、軟らかい新葉が食用になります(公園内では山菜採りはできません)。若い葉を茹でて水にさらし、おひたしやご飯に入れて食べたり、佃煮にしたりして食べられています。茹でた葉を干して保存食にする地域もあるとのこと。季節ごとに楽しめる植物。それがクサギです。

クサギには吸蜜にアゲハの仲間が訪れることが多いです。黒いアゲハチョウの仲間が優雅に飛んでいたら、その行き着く先にはクサギが咲いているかも知れません。夏の終わりから秋の入口にかけての公園で楽しめる風景です。

(龍谷大学先端理工学部・横田岳人)